

# 2013 年度 センター試験 数学 ・ 数学 B (本試験) 分析

## 全体概況

試験時間 60 分

大問数・解答数	大問数：4 題選択				
難易度の変化（対昨年）	難化	やや難化	変化なし	やや易化	易化
問題の分量（対昨年）	増加		変化なし	減少	
出題分野の変化	あり		なし		
出題形式の変化	あり		なし		
新傾向の問題	あり		なし		
<p>総評                      本年度は目新しい出題が目立った。たとえば、第 1 問〔1〕での“図形と方程式”単独の問題、第 3 問での“数学的帰納法”による証明問題などである。しかし、どの問題も誘導が丁寧かつ計算量が減少しており、真面目に勉強してきた受験生には昨年度よりも得点しやすい問題であったと思われる。</p>					

## 大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	コメント
第 1 問	〔1〕図形と方程式 〔2〕指数・対数	30 点	〔1〕分点、直線・円の方程式に関する基本問題である。“図形と方程式”の分野での単独問題は、現行課程では初めてである。 〔2〕指数・対数、3 次方程式の解と係数の関係についての基本問題。3 次方程式の解と係数の関係を知らなくても、誘導に従えば無理なく解答できるようになっている。
第 2 問	微分法・積分法	30 点	極大・極小、接線・法線、面積に関する基本的な問題。誘導に従って丁寧に計算すれば、容易に解答できる。後半の面積に関する部分では、公式を使えるかどうかで、解答時間に大きな差が出たと思われる。
第 3 問	数列	20 点	前半は、2 項間漸化式、数列の和に関する基本問題。後半は、推定した一般項を数学的帰納法により証明する問題。後半は目新しい問題ではあるが、誘導が丁寧なので、問題文の読解ができるかがポイント。なお、最後の設問は流れとは別に単独で解答が可能。
第 4 問	ベクトル・三角関数	20 点	本試験では、2006 年度以来の平面ベクトルの問題。(2)で三角関数について問われているのが目新しい。 (3)で $\vec{OF}$ を求めるのに時間がかかる受験生がいると思われる。なお、(2)が解けなくとも(3)を解答することが可能である。
第 5 問	統計	20 点	省略
第 6 問	数値計算とコンピュータ	20 点	省略